

## 第4回愛媛県新長期計画策定会議 意見要旨

日時：H23.11.4 14:00～16:00

場所：県議会農林水産・建設委員会室

### 54 施策について

#### 施策1 地域に根ざした産業の振興

- ・指標で、従業員1人当たりの付加価値額は、雇用者を下げると可能となるので、一方で雇用者数の増減も対比で見えていくことも必要。

#### 施策5 若年者等の就職支援と産業人材力の強化

- ・産業が盛んになってくれば、雇用が増えてくると思うが、基本政策1に雇用の増加についての具体的な指標があるか。

- ・資料の19ページ、施策5「若年者等の就職支援と産業人材力の強化」に、県の完全失業率、県の有効求人倍率、県内高校・大学新規卒業者の就職決定率、高等技術専門学校における就職率といった指標を記載。【事務局】

#### 施策6 快適な労働環境の整備

- ・成果指標の「個別労働紛争あっせん件数」は、現状値が12件で目標値も12件。12件というのはどういう意味があるのか。
- ・もし、成果指標とするなら、解決の件数/あっせん件数を指標とすると、納得できる指標になるのではないか。

#### 施策7 力強い農林水産業を支える担い手の確保

- ・主な取組み「5 各種団体の健全化・組織力強化」について、このままだと団体に対して監督行政しかないのかという感じがするので、行政と団体との連携体制、あるいは地域活性化のための場を充実など、積極的、前向きなことを書いた方が良いのではないか。

#### 施策19 男女共同参画社会づくり

- ・「県の審議会における女性委員の割合」や「講座の定員に対する受講者の割合」は、既に達成しているので、もう少し具体的な別のものに替えても良い。
- ・「男女共同参画社会」という言葉を知っている県民の割合は、知っているだけではダメ。例えば、女性の管理職の割合やDVの被害者の減少など、もう少し具体的な県民が進歩を実感できるような指標に入れ替えてはどうか。
- ・県審議会の女性割合で、現状値41.4%に対する目標値40%以上はおかしい。もし、この40%以上というのを使うなら、少なくとも現状よりはアップするという趣旨を注に入れた方が良い。
- ・県で、女性管理者の人数、割合は、すぐに取れるのか。数字として、非常に出しにくいのか。
  - ・県職員の女性管理職の登用割合はある。【事務局】
  - ・男女共同参画社会づくりの指標については、県の男女参画計画に載せている指標を採用。【事務局】
- ・委員からいただく御意見を担当の部局にぶつけ、再度、調整をさせていただきたい。【事務局】

#### 施策24 生涯を通じた心と体の健康づくり

- ・成果指標の「がん検診受診率」の目標値は、全て 50%以上となっているが、現状値からは、なかなか程遠い数値ではないか。
- ・成果指標の「65 歳未満で死亡する人の割合」は、男性、女性とも増える目標値になっていて、悪化するということが目標となっている。現状維持が目標になっていると思うので、目標値の設定のスタンスを明確にしておいた方が、後々評価するとき、評価しやすいのではないか。
  - ・「がん検診受診率」は、個別の分野別計画「がん対策推進計画」に設定している数値を引用したということ。【事務局】
  - ・「65 歳未満で死亡する人の割合」については、「健康実現えひめ 2010」に掲げる目標数値(24 年度)が、20%以下であり、確かに、21 年度で既に達成していると聞いている。【事務局】

#### 施策 37 子ども・若者健全育成

- ・目標として「子ども・若者が社会の中でもっと自立できるようにしたい」とあるが、自立は、障害のあるなし、年齢、育ってきた環境にかかわらず、どんな場合でも考えられる点なので、これをどのように考え、目標として立てたかということを、しっかりと持ってないと、次の課題や取組みの方向性が生まれてこない。
- ・主な取組み「1 子ども・若者の社会的自立と社会参加の促進」に対する成果指標がない。例えば、公民館行事の中に子供たちを対象にした体験の場が提供される数などと考えれば可能ではないか。

#### 施策 39 確かな学力・豊かな心・健やかな体を育てる教育の推進

- ・大人になって本当に自立できるかどうかは、それまでの育ってきた環境の中でいかに多くの体験をしていることがキーポイントのひとつ。
- ・成果指標の「道徳の時間の年間指導計画に体験活動を生かす工夫を位置づけている学校の割合」は、道徳だけでは間に合わない。指標の在り方を考えていただきたい。

#### 政策 生涯学習と文化の振興

- ・スポーツに比べて、もう少し文化や生涯学習でも全国的な視野が欲しい。

#### 施策 42 学び合い高め合う生涯学習社会づくり

- ・成果指標の「生涯学習の講師として登録している者の数」は、登録者がいかに活用されているかが大事なので、指標を見直してはどうか。

#### 施策 46 環境教育・学習の充実と環境保全活動の促進

- ・取組みの方向の「大学や試験研究機関等と連携して環境に関する技術開発や試験研究の機能強化を図ります」に対する主な取組みが全くないので、少し補足した方が良い。
- ・県の環境創造センターや衛生環境研究所などの試験研究機関について、どういった理念や目的を持って、この計画を進めていくのか、書き込んではどうか。

#### 施策 51 魅力ある里地・里山・里海づくり

- ・グリーン・ツーリズムの在り方については、本省において、観光産業から見たグリーン・ツーリズムを視野に入れた施策の転換を図っているということなので、県としての見直しや転換の総合的な検討は必要。(参考意見)

#### 施策 52 再生可能エネルギーの利用促進

- ・現状と課題には、電気しかないようなので、熱と輸送用の燃料などについても検討していた

だきたい。(要望)

#### 施策 54 恵み豊かな森林(もり)づくり

- ・主な取組み「4 間伐材等の木材利用の推進」では、間伐材の公共工事や製紙用原料、燃料への利用について、ぜひ力を入れていただきたい。(要望)

#### 指標について(全般)

- ・各施策の評価に指標がどれだけ重要視されるのか。評価の外部委員会が、各施策の達成率を評価するとき、成果指標を根拠にするなら、指標を非常に増やさないと客観的な判断ができない。
- ・各取組みに対応する指標を示すなど、各取組み1個に対し最低1個は必要。
- ・パブリックコメントを実施する際には、成果指標に議論が集中しないような工夫が必要なのではないか。
- ・目標に対して成果指標が決められているというふうに考えることもでき、主な取組みは、あくまでも目標を達成するための手段であるので、最終成果として成果指標で測定する必要は必ずしも無いと思う。
- ・ただし、手段も非常に重要であるので、事前に目標を立て、何をどれだけやったかということもプロセス指標として盛り込んで良いのではないか。
- ・目標値は、必達目標なのか、達成できなくてもいいから、高い目標を掲げて、みんなが頑張ろうという気持ちになる目標と立てているのか。
- ・指標の中に、名目値と実質値が混在。こういう指標をもう少し長い目で見ても、いろんなところで使っていくのであれば、物価の変動の部分をどう調整するか、どう考えていくのかということも大事。
- ・今後、長い目で見れば人口も減るので、もっと1人当たりの指標を重視しても良い。
- ・指標には説明が必要ではないか。
- ・個別計画について、個別の部署に特段問題がなく、長期計画に合わせて変えていく見込みがあるならば、よく調整すれば、踏み込んで設定できるのではないか。

#### その他(全体的な指摘)

- ・県の試験研究機関が、こういった理念や目的を持って、この計画を進めていくのかということを書き込む必要があるのではないか。計画全般にわたって、県の試験研究機関が、関与できることや、リードしなければいけないことを、ある程度明確にした方が良い。
  - ・例えば15ページ、施策4「新産業の創出と産業構造の強化」の主な取組み1に「さらに、繊維産業技術センターの移転整備など、産業技術研究所における研究開発・技術支援機能との強化を図ります。」というような形で、試験研究機関の一部については、載せている。【事務局】
  - ・主な取組みで、全ての機関を網羅しているわけではないので、御意見を踏まえて検討する。【事務局】
- ・主な取組みの中で、商工関係や農業関係とった色は出し過ぎずに、縦割りで無く、適切に部局間の連携をするということを明確に謳っておいた方が良い。
- ・語尾について、少なくともアウトプットは約束できるので、「努めます」と、どうしてもとれる逃げが許されるような書き方は極力やめて、断言した書きの方が良い。

## 推進姿勢について

### 2 最大の効果を生み出すネットワーク構築に向けた“連携”

- ・県民に広く周知をするということから、さらに一歩進んで、協力していただけるような体制を整える必要もあると思う。
- ・(2) 多様な主体との協働・連携で、「NPOとの協働や大学・企業などとの産学官連携、民間のノウハウや経営感覚の活用などにより新たな施策展開につなげる」とあるが、今回の施策や目標、取組みは、企業やNPO、各種団体からすると、ビジネスチャンスだと思うので、県としては、これらの力を上手く引き出して、愛媛の愛顔づくりに結集させられるように、工夫(例えば、提案制度など)をお願いしたい。
- ・県民環境部にある協働提案事業では、原課が必ずしも積極的ではないということがあったので、多様な主体との調整やあっせんが進むようになれば良い。
  - ・県においては、提案型のパートナーシップの推進事業や愛媛県版の協働化テストといった取組みを実施しているところ。【事務局】
  - ・推進姿勢として挑戦、連携、創造の3つを打ち出す中で、特に県民との連携については力を入れていくことになる。知事の基本的なスタンスとしても、県民が主体で、行政として県民の方々の取組みを応援するということがあるので、今後、いただいた御意見などを参考に、各部局とも連携しながら進めていきたい。【事務局】
- ・県の提案制度はテーマがある程度固定されていて、NPO側がしたい事業が必ずしもそれと合わない。NPO、市民団体にテーマを決めさせていただきたい。
- ・中間支援、通訳・ファシリテーター側をする組織が育っていないので、そこを底上げするようなところを盛り込んでいただきたい。

### 3 新たな政策と戦略の“創造”

- ・「部局横断的な視点で、幅広い業務に機動的に対応できる執行体制を」とあるが、具体的に文言化している箇所はあるか。自主的に任せるのか、仕組みづくりを考えているのか。また、県庁内でのチェックをどのように推進しようとしているのか。
  - ・アクションプログラムでは、基本的な方向を示すことに力点を置いている。具体的にどう実現するかは、これまでのプロジェクトチームや推進班のような、目標・取り組む方向の実現を図れるような最適な体制を考えて取り組んでいくことになる。【事務局】
  - ・県庁内部においても、政策立案型行政の推進に向けていろんな取組みを進めているところ。県政の諸課題、問題点等について部局の立場を越えて議論をする部局長会も設けており、そうした場等を通じ、内部的にもきちんと評価をした上で、計画の推進に努めてまいりたい。【事務局】
  - ・毎年度、重点化方針を作成する際には、成果指標の進捗状況や県が置かれている状況、県民の方々の意見、ニーズなどを総合的に評価し、方向性を固めていくことになるが、大所高所から外部の意見を聞きながら、進めてまいりたい。【事務局】
- ・(2) 新たな戦略の創造については、達成度に応じて予算編成が行われるという誤解も生じかねないので、事業の優先順位や事業のセレクトということと、それぞれの事項にPDCAシステムを確立させるということは、分けて文章化した方が良い。

その他

## 広報について

- ・そろそろ県民を巻き込んでいくということをやっていかなければいけない。
- ・県民への長期計画の認知度調査は、モニター調査程度でもいいので、あると良い。
  - ・児童・生徒からの未来画のコンクールの募集やパブリックコメントなど、県としてできる限りのことを進めているところ。【事務局】
  - ・計画の全体版について2,000部程度、概要版については10,000~20,000部程度を印刷し、県民、企業、団体等に配布予定。【事務局】
  - ・県政広報紙「愛顔のえひめ」やテレビ、ラジオ、CATV等の県政広報番組などで、年明けから集中的に広報を行いたい。【事務局】
  - ・県内各地での説明会開催や県政出前講座などにより、県民と共に長期計画が推進できるような形について気を配ってまいりたい。【事務局】
  - ・県の予算編成、事業執行に色濃く反映させることを基本的な考え方としているので、そうした取組姿勢が県民の方に伝われば、自ずと計画に対する関心も深まっていくのではないかと考えており、今後も機会を捉えまして長期計画が掲げる目標や取組みの方向が県民に浸透するよう努めてまいりたい。【事務局】
- ・ホームページにこういう案があるということはバナーでも貼って出すことはできるのか。
  - ・ホームページには、今までの会議の議事録も含めて掲載しているところ。策定後は、できるだけ目立つところに掲載できるよう、今後検討していきたい。【事務局】
- ・より多くのいろんな手法で周知を図る必要がある。そういった中でソーシャルネットワークサービスなどの利用も考えてはどうか。
- ・県が出しているものは言葉が難しい、分かりにくい。
  - ・長期ビジョン編で最後のページに用語の解説を設けたように、アクションプログラム編についても、最終的にはわかりやすい形にしたい。【事務局】
- ・予算に反映させて、飾りじゃないんだということを強く打ち出していきたい。
  - ・予算への反映は、今回の計画を絵に描いたもちにしないための一番重要な点なので、努めていきたい。【事務局】
- ・各部署が関係する団体等を活用してはどうか。
- ・県民側にメリットがあると思えると自然と押し付けなくても広がっていくので、県民の生活に密着しているところを、全部でなくても3つか4つかピックアップしていければ良い。